

大河原町 都市計画マスタープラン（案）

大河原町の都市計画に関する基本的な方針
概要版



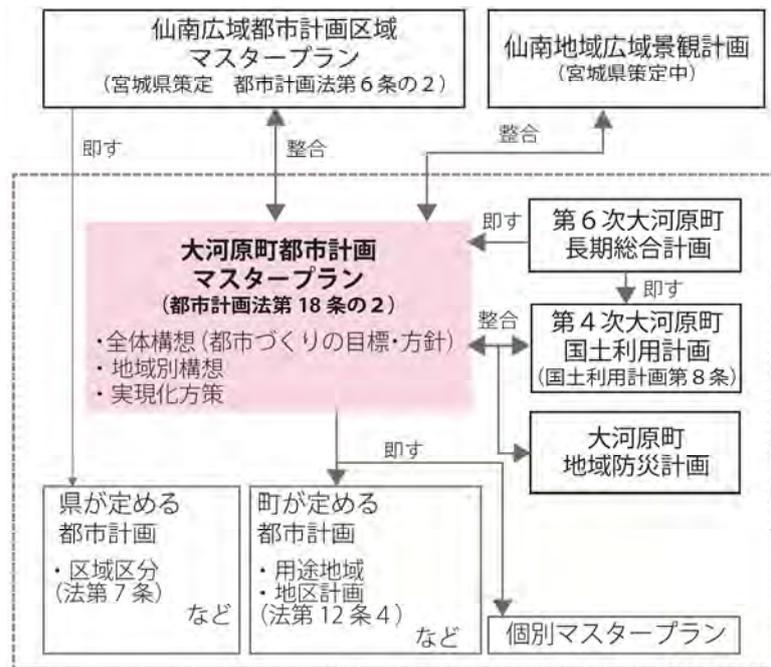
令和元年6月

■都市計画マスタープランの計画策定の背景と目的

都市計画マスタープランは、平成4年（1992年）の都市計画法改正により創設された制度で、市町村の都市計画に関する基本的な方針（都市計画法第18条の2）を示すものです。

本町においては、上位計画となる「第6次大河原町長期総合計画」の策定を踏まえ、仙南広域圏での位置づけや人口動態、時代の変化等を踏まえながら、今後の都市全体の将来像や土地利用、交通体系等のあり方について長期的な視点で総合的な方針を定めることを目的として、大河原町都市計画マスタープランを策定しました。

○大河原町都市計画マスタープランの位置づけ



■全体構想

目標年次

上位計画となる長期総合計画との整合を図り次のように設定します。

<計画期間> ・2019～2028年度 （10年間）
<中間年次> ・2023年度

将来人口フレーム

本計画における将来人口は、長期総合計画に即すものであるため、長期総合計画に示された施策を講じた場合とします。

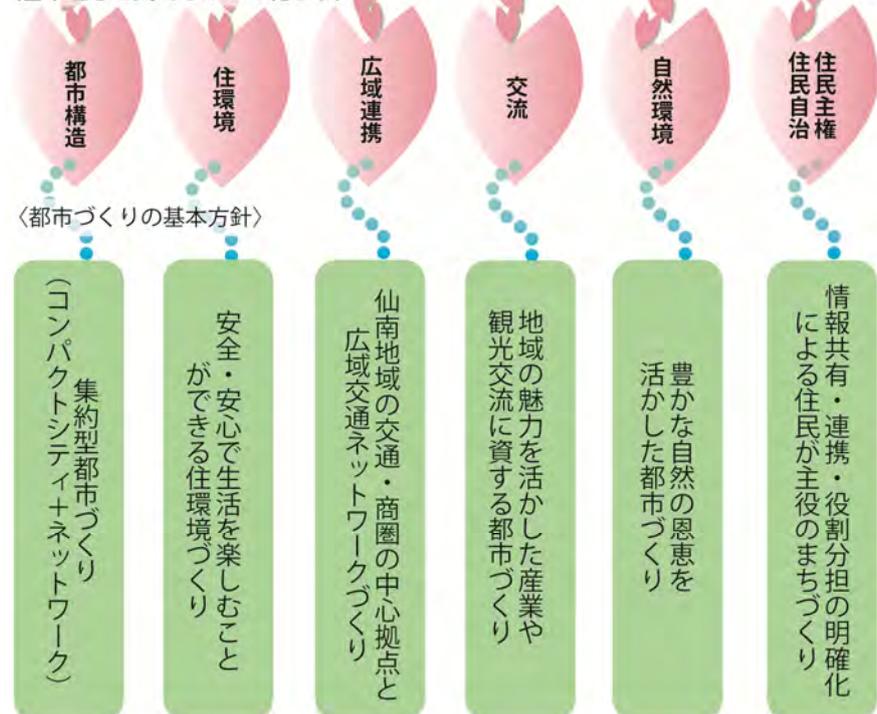
<2029年の目標人口> ・23,034人
<参考：2015年の人口> ・23,798人

基本理念

<都市づくりの理念>

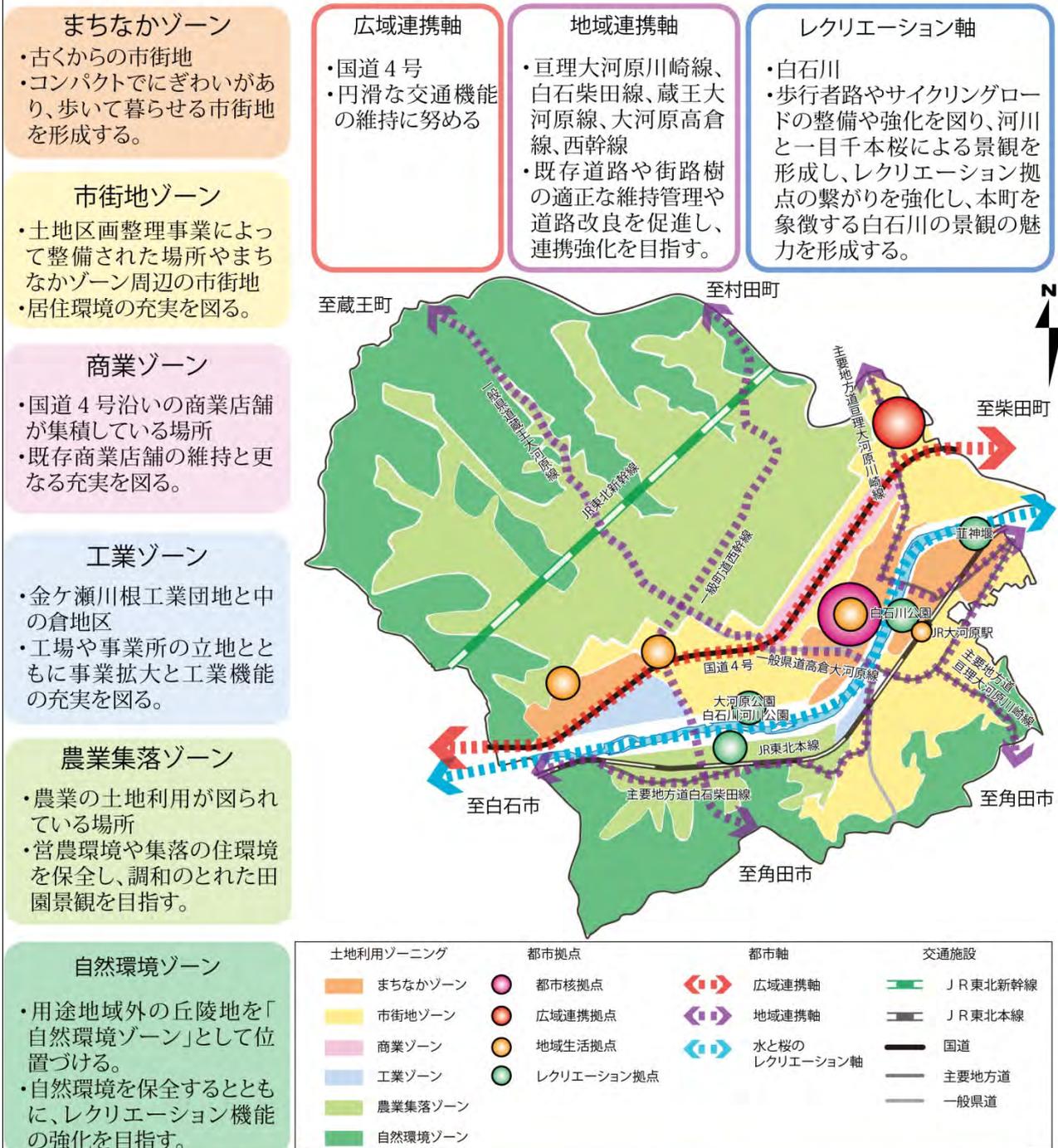
潤いのある水の流れと桜がつなぎ、彩り、誇りが育つ
ぎゅぎゅっと便利と魅力がつまったまち

<基本理念を支える6つの花びら>



■将来都市構造

本町の特徴ある自然と地形、古くから育まれてきた町の変遷など、現在までの町の形成や都市構造を基本とし、将来のまちづくりを見据えた土地利用ゾーニングや様々な都市機能を集約した都市拠点、骨格となる都市軸を配置します。



都市核拠点

- 町役場周辺
- 生活、行政、交流といった都市活動の中心となる機能を集約し、本町の中心市街地としての活性化を目指す。

広域連携拠点

- 国道4号・亘理大河原川崎線の交通結節点周辺
- 広域圏に対応した文化機能、医療・福祉等の施設の共同設置や維持・更新を図る。

地域生活拠点

- 町役場周辺、大河原駅周辺、広表・金ヶ瀬公民館周辺
- 生活サービス機能や医療・福祉機能や子育て支援施設を集約し、コミュニティ拠点としての活性化を目指す。

レクリエーション拠点

- 葦神堰、白石川公園、白石川河川公園、大河原公園、川前地区周辺
- 既存施設等の維持管理と魅力向上のための再整備や、水辺景観・蔵王への眺望景観の魅力を高める河川敷空間の整備、農業交流も意識した施設整備などを進める。

■土地利用、市街地整備及び保全の方針

現状の土地利用や用途地域指定、各種法規制状況などから、各ゾーンを配置し、拠点やその他の土地利用配置方針を整理するとともに、各ゾーンの整備方針を整理します。

○土地利用の方針

- ・都市核拠点に行政機能、医療・福祉施設、生活便利施設の集積を図る。
- ・地域生活拠点において生活サービス機能やコミュニティ施設の機能強化を図る。
- ・広域連携拠点において仙南広域圏を対象とした文化、事務機能、大規模医療・福祉等の維持・更新を図る。
- ・レクリエーション拠点において既存の河川敷公園の維持や新たな空間整備を図る。
- ・まちなかゾーンと市街地ゾーンにおいて、低・未利用地や空き家を活用し定住促進を図る。
- ・商業ゾーンや工業ゾーンでは、土地利用の維持や強化を図る。
- ・農業集落ゾーンや自然環境ゾーンでは、既存土地利用の維持・保全し、レクリエーションの場として活用する。



土地利用ゾーニング	拠点	交通施設
まちなかゾーン	都市核拠点	J R東北新幹線
市街地ゾーン	地域生活拠点	J R東北本線
商業ゾーン	広域連携拠点	国道
工業ゾーン	レクリエーション拠点	主要地方道
農業集落ゾーン		
自然環境ゾーン		

○市街地整備及び保全の方針

- ・都市核拠点や地域生活拠点内の既存商店街では、道路の環境整備やにぎわい空間整備を行う。
- ・まちなかゾーン、市街地ゾーンでは、狭隘道路の整備、街路灯の設置、避難経路確保、冠水解消に努める。
- ・金ヶ瀬川根工業団地の未利用地の活用、既存工場エリアの環境保全、工業団地内の基盤整備推進に努める。
- ・農業ゾーンでは、集落環境の維持・整備を図る。

交通施設整備・保全および見直し方針

土地利用や拠点的な機能を結ぶ骨格となる道路の整備方針や公共交通等の方針を整理します。

○道路

〈幹線道路整備・保全・見直しの考え方〉

・整備済区間（既存）

交通機能の維持

・概成済区間（既存）/未整備都市計画道路

交通需要・機能、ネットワーク等について、現状を整理し都市計画道路の見直しを検討する。

〈生活道路〉

まちなかゾーン、市街地ゾーン、農業集落ゾーンにおいて、狭隘道路の拡幅、隅切整備、歩道整備、降雨時冠水区間等の道路改良を行い、日常の安全性や災害時の速やかな避難経路の確保に努める。



道路	整備予定区間:主要幹線道路(地域連携軸)	生活道路の改良を検討するゾーン
—— 整備済:主要幹線道路(広域連携軸)	整備検討区間:主要幹線道路(地域連携軸)	まちなかゾーン
—— 整備済:主要幹線道路(地域連携軸)	ルート変更検討区間:主要幹線道路(地域連携軸)	市街地ゾーン
—— 整備済:都市幹線道路	整備検討区間:地域内幹線道路	農業集落ゾーン
—— 整備済:地域内幹線道路	見直し検討区間:地域内幹線道路	鉄道
—— 整備済:生活道路	見直し検討区間:生活道路	JR東北新幹線
○ 橋梁拡幅検討箇所(末広橋)	○ JR東北本線と未整備都市計画道路の交差箇所	JR東北本線

○鉄道

・関係機関と連携し、既存の交通機能の維持および利便性の向上について検討する。

○バス交通等

・関係機関と連携し、大河原駅を中心とした路線バスルートを維持する。
 ・路線バス利用圏から大きく離れている地域を中心に、デマンド型乗合タクシーのあり方について検討する。

■公園緑地等の整備方針

都市公園をはじめとし、河川や農業、森林空間など、公園緑地等の整備方針を整理します。

○公園緑地等の整備方針

- ・「住民1人当たり10㎡以上」の水準に向けた整備と適正な維持管理を推進する。
- ・市街地の状況、都市公園の分布を踏まえた都市公園の見直しを検討する。
- ・大河原公園の施設再整備と適正な維持管理推進を検討する。
- ・河川敷の公園は、河川管理者と協議し、機能強化と適正な維持管理、親水空間についてを検討する。

○白石川河川敷の有効活用

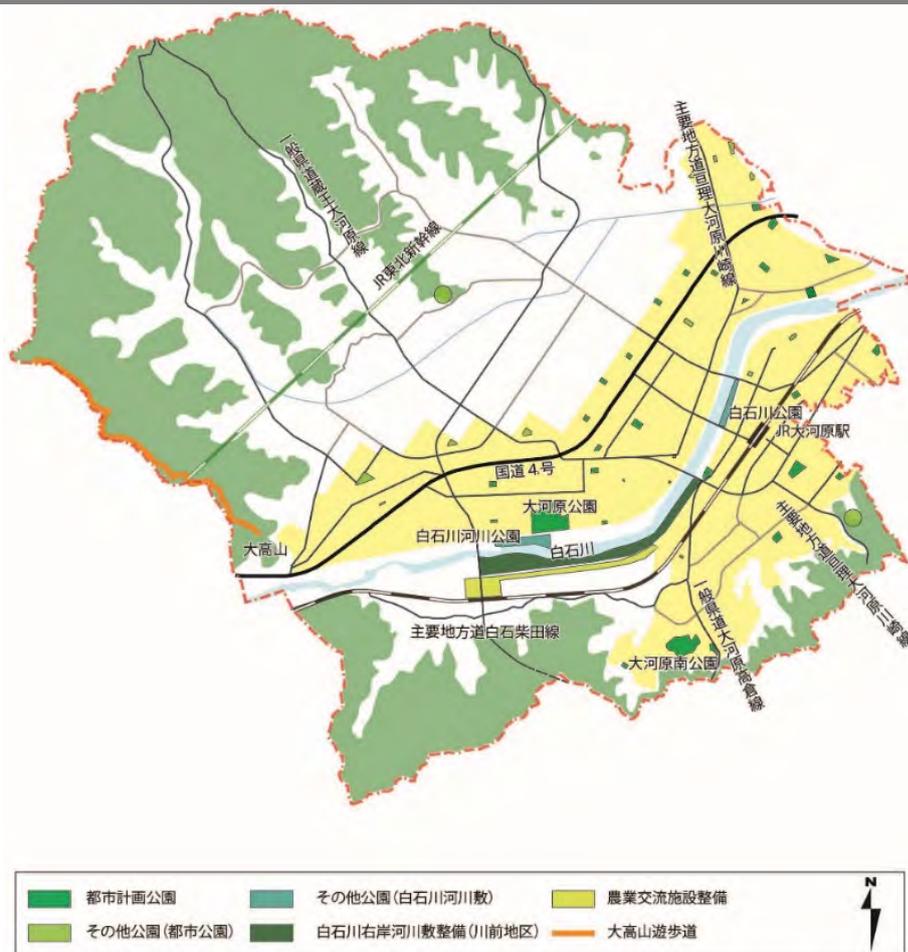
- ・白石川右岸河川敷をレクリエーションや親水空間として整備する。
- ・河川堤防や河川敷空間を活用したサイクリングロード等の整備を検討する。

○河川と一体となった農業交流施設

- ・川前地区で、河川景観と田園景観が一体となった農業交流施設の整備を検討する。

○森林の有効活用

- ・大高山遊歩道の整備を検討する。
- ・農地や里山景観を活かした空間づくりを検討する。



■都市防災の方針

大河原町地域防災計画に基づき、都市防災を進めるにあたり、都市づくりや都市施設整備に係る方針を整理します。

○風水害対策

- ・避難経路の道路拡幅や避難誘導サインの設置を検討
- ・水害時指定避難場所設置を検討する。

○土砂災害予防対策

- ・県と連携を図り、土砂災害危険箇所の防災工事の推進に努める。

○市街地の防災対策

- ・避難路の整備に努める。
- ・都市公園に、避難場所、防災活動拠点としての役割を果たすために必要な備蓄倉庫、防災トイレ等の設置を検討する。

○公共建築物及び防災基幹施設の堅牢化・安全化

- ・防災上重要と判断される公共建築物の堅牢化・安全化の推進に努める。
- ・町役場庁舎、消防・警察、医療機関等の防災関連施設の維持・保持に努める。

○建築密集市街地の火災対策

- ・道路拡幅による延焼防止、避難経路確保に努める。

○上水道施設の安全性強化・強靱化

- ・計画的な整備により、災害時の断水等の影響を最小限に食い止め、早急な復旧が可能となるよう努める。

○防災拠点等の整備

- ・都市計画公園、庁舎、学校等のオープンスペースを活用した災害救助活動空間の整備に努める。

○空き家対策

- ・管理が不十分な空き家は、所有者等に対する指導・助言や家屋解体等の代執行により、空き家の適正管理や除去の促進に努める。

○地震対策

- ・様々な災害対策を総合的に行うことで、複合災害である地震に備える。

■都市環境・景観形成の方針

本町を特徴づけ、暮らす人々のアイデンティティとなる都市環境・景観の方針を整理します。

○都市環境の形成方針

- ・市街地の拡大を防ぎ環境負荷の小さな都市づくり
- ・歩いて暮らせる都市づくりを推進する。
- ・生物多様性に配慮する。

○景観形成の方針

- ・蔵王連峰への眺望景観を確保するための取り組みを検討・推進する。
- ・河川空間の適正な維持管理を推進、魅力的な場所での環境整備、景観づくりを検討する。

- ・町のもつ歴史を活かした景観形成を検討する。
- ・駅前や商店街の景観づくりを推進する。
- ・幹線道路沿いの景観ルールづくりを検討する。
- ・地域住民の実施する活動への支援を推進する。
- ・自然景観を阻害しないルールづくりや緑の保全を図る。
- ・田園景観の維持を図る。
- ・川前地区において河川と田園景観が一体となった空間整備を進める。

■上下水道・河川の整備方針

ライフラインとなる上下水道や町を横断する白石川などの整備方針を整理します。

○上下水道

- ・既存の上下水道施設の適正な維持管理に努める。
- ・雨水処理は、下水道計画区域内において施設整備を推進する。

○河川

- ・水害防止のため、河川の維持管理に努める。
- ・雑木の撤去、川底のしゅんせつ等により防災面の強化を図る。

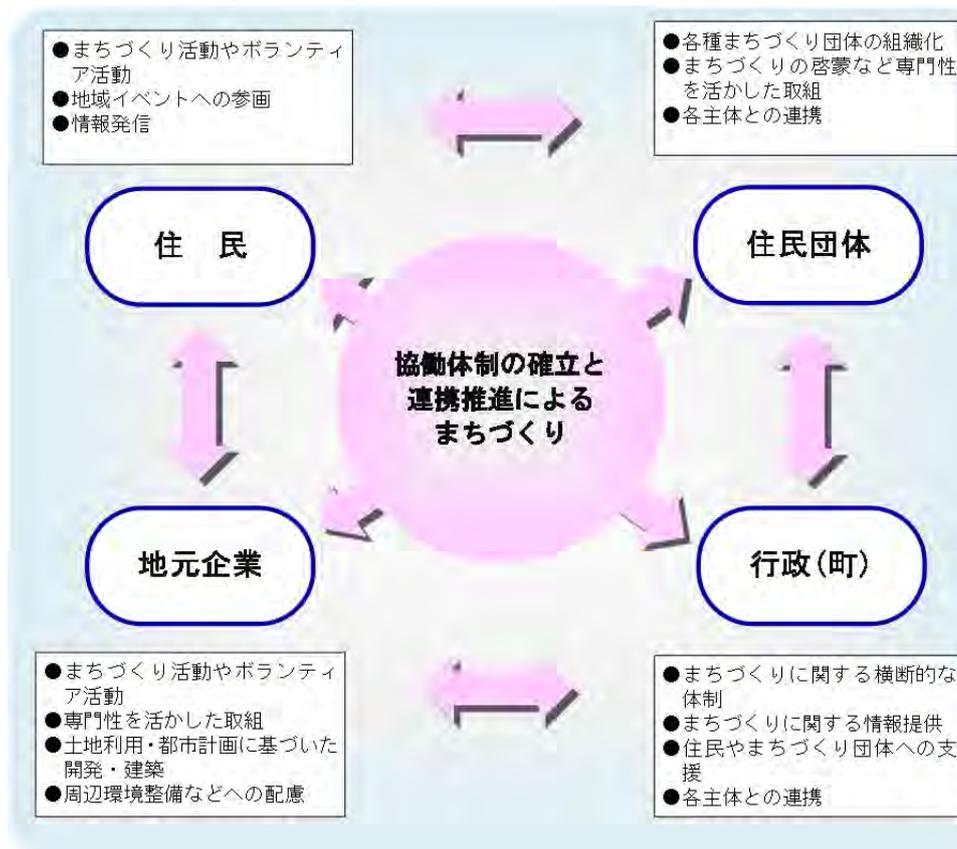
■実現化方策

都市づくりの背景とニーズ、都市計画の方向性を踏まえ、実現化方策の方針を整理します。

○実現化方策の方針

- ・官民が一体となってまちづくりを推進していくことや、官民協働のまちづくり体制を構築し、各主体の役割分担を明らかにする。
- ・住民ワークショップにより、住民が特に重要・課題であると考えている点について、重点プロジェクトとして取り組む。
- ・関連する法制度、補助メニューについて整理する。

○官民協働のまちづくり連携体制イメージ



○主な重点プロジェクト

(仮称)生活道路改良プロジェクト

狭隘道路、冠水する道路等の課題箇所を整理し、計画的な道路改良推進

(仮称)空き地・空き家対策プロジェクト

市街地内の空き家について速やかな除去を推進
不動産事業者等と連携した空き家の見える化、マッチング推進体制構築

水と桜のレクリエーション軸形成プロジェクト

白石川河川敷を活用したサイクリングロードの整備
白石川右岸(川前地区)の高水敷を活用したレクリエーション拠点を整備
住民意向を踏まえた大河原公園のリニューアル

〈地域の目標像〉

住む人々が互いに交流し助け合い、白石川や山・田園ののどかな風景が居住魅力を高める
穏やかで温もりのあるまち

〈まちづくりの目標〉

○集約型都市の核となるにぎわいのある駅前環境づくり

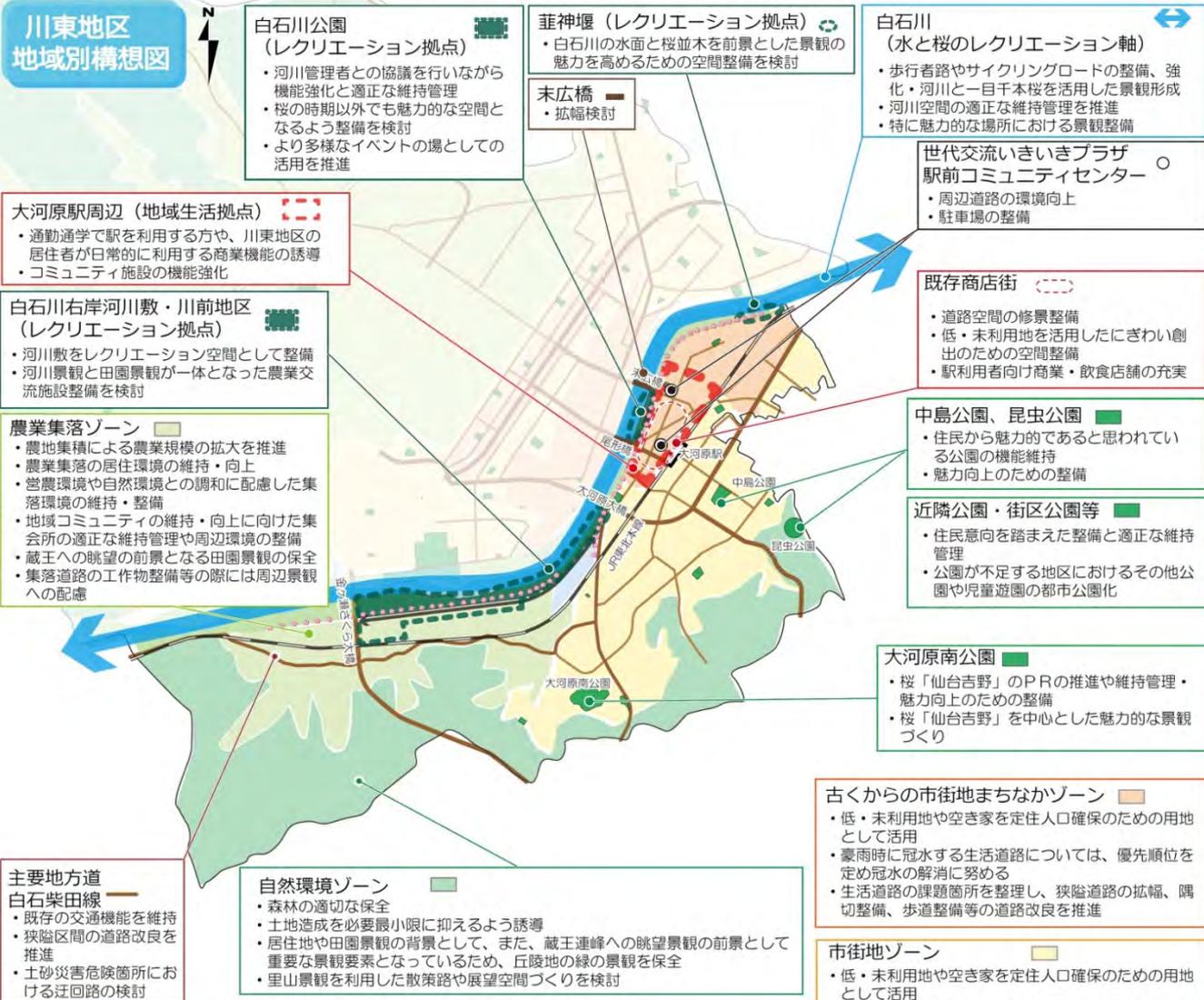
- ・JR大河原駅前周辺に商業機能を誘導
- ・地区内での生活を支え、コミュニティを育てる地域内生活拠点を形成
- ・低・未利用地や空き家を活用した定住促進
- ・デマンドタクシーの機能強化検討

○安全・安心で生活を楽しむことができる住環境づくり

- ・避難場所、避難路、避難誘導施設の整備により、水害時避難の円滑化
- ・道路の拡幅、隅切確保、街路灯整備、歩道整備、冠水解消、路面表示整備等により生活道路の安全性向上
- ・空き家の再利用や低・未利用地活用

による定住促進、居住魅力向上
 ・都市公園、公共施設等への備蓄倉庫、防災トイレ等災害時に活用可能な施設の設置を推進
 ・コミュニティの活動を支える施設の維持や利便性・魅力向上について検討

川東地区
地域別構想図



○仙南地域の交通・商圏の中心拠点づくり

- ・大河原駅前に各種生活利便施設を誘導

公共交通について (全域)

- ・既存のデマンド型乗合タクシーの機能強化を検討

○雄大な白石川を活かした居住魅力向上・観光交流に資する都市づくり

- ・一目千本桜、白石川の河川空間レクリエーション空間の魅力向上
- ・河川敷空間の整備
- ・農地や里山景観を活かした空間づくりを検討

○豊かな自然の恩恵を活かした都市づくり

- ・営農環境の保全
- ・自然環境の保全
- ・里山景観を活用したレクリエーション機能を検討

○情報共有・連携・役割分担の明確化による住民が主役のまちづくり

- ・計画段階からの住民参画推進
- ・各種情報発信等によりまちづくりへの町民意識の向上

〈地域の目標像〉

昔馴染みのコミュニティと新たな定住者が交流し、魅力ある自然や風景と便利が同居する
和やかで暮らしやすいまち

〈まちづくりの目標〉

- 集約型都市(コンパクト+ネットワーク)の核となる商業・コミュニティの中心づくり
 - ・既存市街地内の低・未利用地を有効活用するため、住居や生活サービス施設の立地を誘導。
 - ・金ヶ瀬地区内での生活を支え、コミュニティを育てる地域内生活拠点形成する。

○安全・安心で生活を楽しむことができる住環境づくり

- ・避難場所、避難路、避難誘導施設(サイン等)の整備による水害時避難の円滑化
- ・道路の拡幅、隅切確保、街路灯整備、歩道整備、路面表示整備など、生活道路の安全性向上
- ・空き家の再利用や低・未利用地を活用し、居住魅力向上
- ・都市公園、公共施設等への備蓄倉庫、防災トイレ等災害時に活用可能な施設の設定を推進
- ・コミュニティの活動を支える施設や充実した子育て環境の維持や利便性・魅力向上について検討

金ヶ瀬地区
地域別構想図



○仙南地域の交通・商圏の中心拠点づくり

- ・大規模商業店舗が集積する国道4号沿道(広表)への更なる商業機能誘導

○豊かな自然の恩恵を活かした都市づくり

- ・営農環境の保全
- ・自然環境の保全やレクリエーション機能の強化

○地域の魅力や歴史を活かした産業や観光交流に資する都市づくり

- ・金ヶ瀬川根工業団地への、工場・事業所等の誘致
- ・旧奥州街道沿いの歴史を伝える建造物などの有効活用と街並みや大高山神社の桜を活用した景観づくりによる居住魅力向上と交流人口拡大、賑わい創出
- ・大高山神社、堤梅団地、新開地区から蔵王への眺望、おおがわ天然温泉等の地域資源を繋ぐ里山ネットワークづくり

○情報共有・連携・役割分担の明確化による住民が主役のまちづくり

- ・計画段階からの住民参画推進
- ・各種情報発信等によりまちづくりへの町民意識の向上



大河原町

Ogawara town public office